

◆千点余の図版を交えた通史的解説

(オールカラー)

+ 詳細な訳注、染織用語・人名・史料名索引
+ 日本語版監修者によるオリジナル論文

中国絹織物全史 七千年の美と技

〈発行〉科学出版社東京
〈発売〉国書刊行会

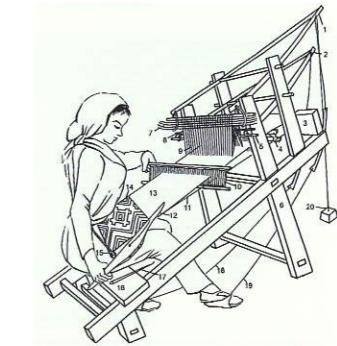
中国文化に深く浸潤し、
日本にも多大なる影響を与えた中国の絹織物
遙かなる古代から清朝末期まで、その輝かしき歴史を、
豊富な図版と徹底した考証でたどった
百科全書的通史、ついに翻訳なる！

◆本書の特徴

- 中国の絹織物について、その起源から20世紀までの悠久の歴史を、種類や文様、技法の変遷を中心に、豊富な実例と歴史的考証を交えて包括的に記した、オールカラーによる図説の通史。
- 錦・綾・綺・繡子織・粧花〔縫取錦〕・緯絲〔綴織〕や刺繡など、創意を極めた技法によって制作されたあらゆる文化財（服飾品、書画、軸物、タンカ、団扇、匂い袋、絨毯、座具等）を網羅的に収録。絹織物の精髓を総1021点にも及ぶ図版を用いて系統的に解説する。
- 著者が実物を分析して描いた織物構造の組織図および意匠図が添付され、直感的に織物組織の立体構造を把握できる。また染色、織機や紋織装置、特殊な糸や素材の製法などについてもきめ細かい記述がなされ、染織の実作家にも有用である。
- 日本の染織研究の第一人者である小笠原小枝氏によるオリジナル論文「日本における中国の絹織物」を付した。また、日本の読者の便をはかり1300件を超える詳細な訳注、および染織・刺繡用語、人名、書籍・史料名索引を作成し付した。



●漢代の傾斜型平織機の図



●湖南省通道トン族自治区の
トン錦織機図(黄能馥作図)

◆本書をおすすめします

- 染織の愛好家、実作者。染織史の研究者／芸術学部
- 服飾・服飾史の研究者／家政学部、服飾専門学校
- 中国文化史・東西交渉史・シルクロード研究／文学部東洋史学科
- 有職故実・仏教史など日本文化史の研究者／文学部日本史学科
- 染色・纖維学の研究者／工学部
- 茶道関係者、名物製の愛好家
- 服飾デザイナー、デザイン会社
- 美術館、博物館、都道府県立図書館、市町村立図書館、高校図書館など

中国絹織物全史—七千年の美と技(日本語版)

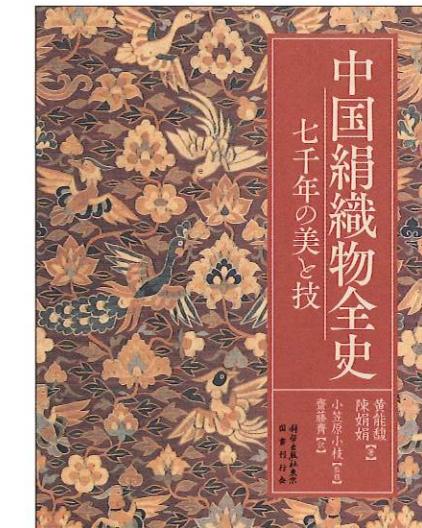
黄能馥・陳娟娟[著] 小笠原小枝[監修] 齋藤齊[訳]

A4変型判／上製／全1巻・568ページ／オールカラー

2015年6月発売予定 ISBN978-4-336-05808-9

定価：本体4万円+税

発行：科学出版社東京 発売：国書刊行会



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL:03-5970-7421 FAX:03-5970-7427

<http://www.kokusho.co.jp> e-mail:sales@kokusho.co.jp

取扱店

◎申込書

『中国絹織物全史—七千年の美と技』 定価：本体4万円+税

ご記入後、お近くの書店へお持ち下さい。

お名前

ご住所

お電話

私の羅織研究の契機となつた中国の絹織物

重要無形文化財保持者「羅・経錦」

北村武資

『中国絹織物全史—七千年の美と技』が発刊されるという。

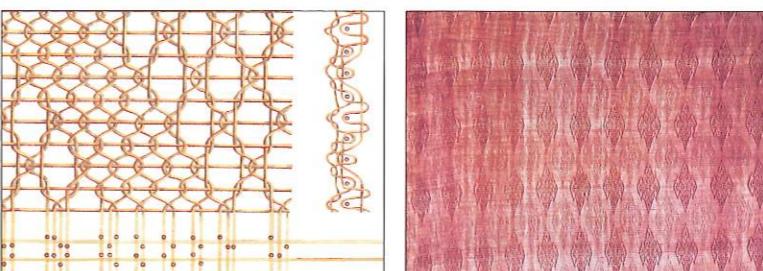
一九七二年、湖南省長沙馬王堆に於いて前漢墓が発掘されて間もなく、当時の生活の様子を生々しく伝える報道写真展が開かれ、その夥しい副葬品の中に幻想的に写し出された一枚の羅の写真が私の羅織研究の契機となつた。

羅は、すべての絹糸が左右に撓み合う編物のような薄綿であり、紀元前にも遡る時代に完成されていながら現代の織物技術によつては容易に再生することが出来ない不思議な織物である。

二千年もの昔に、蘭から引き出された毛髪よりも細い絹糸によつて織られた羅は、どの様な機の仕組みのもとに作り得たのだろうか。羅に限らず錦、綾、縞子など絹の織物は、金銀財宝にも優る価値あるものとして求められ、当時の工人は競つて機を織り技を磨いたのだろう。

本書には、原始以来の中国歴代の王朝に彩りを添えてきた様々な織物の写真と、あわせて、その組織図や織機の図解などの資料も掲載されていて興味深い。織物研究の行きつくところは奈良正倉院の遺宝であり、更にそれにつながる壮大な中国大陸の歴史と文化である。

近年の新たな発掘資料を加えて編纂された本書は、織物の研究者や愛好家にとつて必須の書物である。



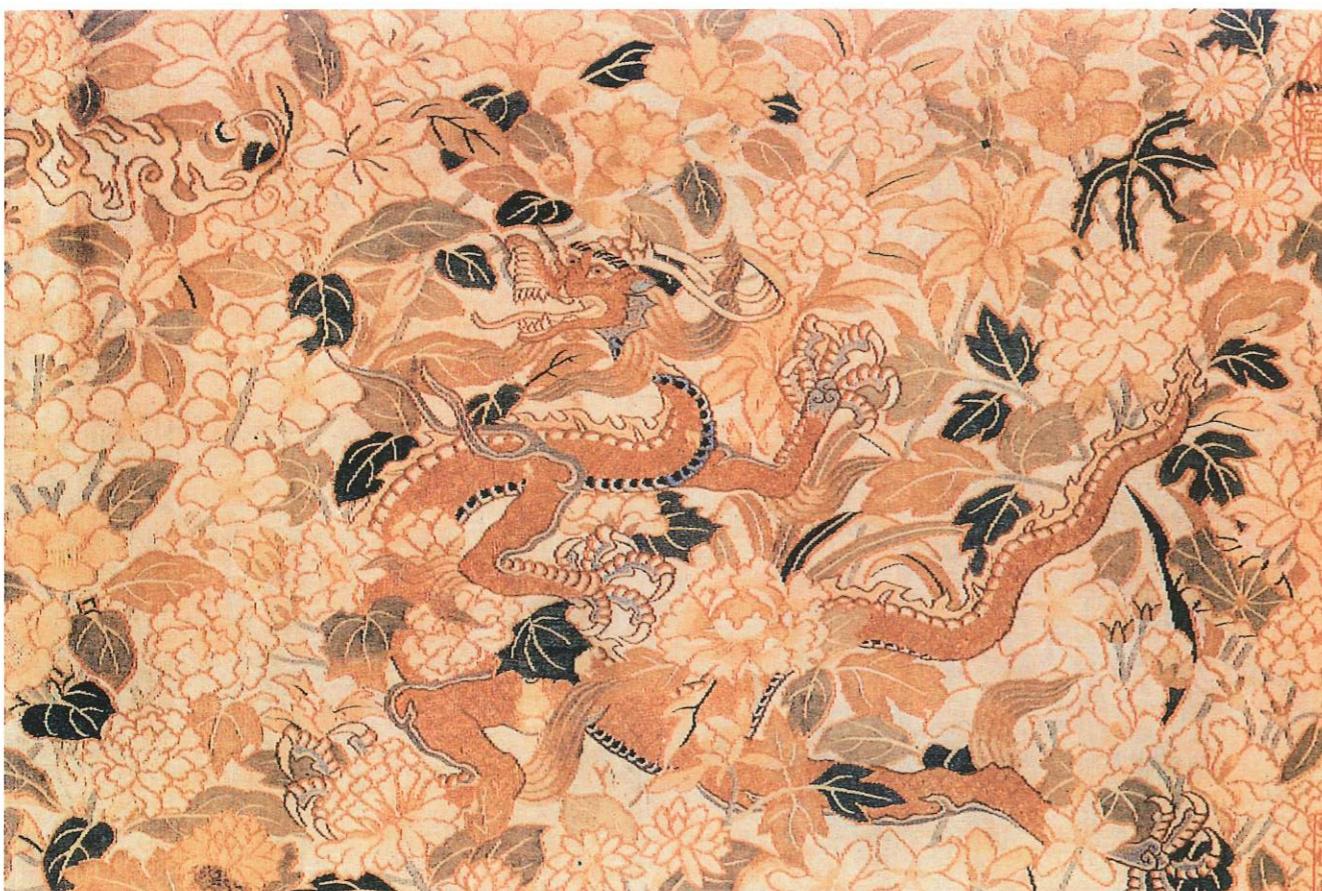
●経2丁目に経4本が捩れる羅の組織図 ●前漢 烟色菱文羅

悠久の時の流れを通じて、常に高度な技術を発展させ、時代ごとにそれぞれに特色ある華麗な、あるいは精緻な染織の花を咲かせてきた中国の絹織物。半世紀余に渡る発掘調査の成果によつて、西周から漢、三国・両晋・南北朝、隋唐、遼・金・宋・元を経て、明・清を結ぶ染織資料が整えられ、研究が進められ、ついに図説の通史として結実したのが本書です。

中国の絹織物は、日本の染織・文化史上にも大きな影響を与えるとともに、確実な足跡を残してきました。飛鳥・奈良時代を代表する法隆寺・正倉院伝來の染織品のなかに見る隋唐代の絹錦や緯錦、あるいは室町時代から茶席で賞玩され、今日も「名物製」として珍重されている中国元明の金襴や緞子。さらに由緒ある寺院に相伝の証として受け継がれてきた袈裟の中には、鎌倉時代に入宋した禪僧らによつてもたらされた宋代の絹織物もあります。

一方で、平安時代の『源氏物語』や『枕草子』などの物語や日記に散見される「唐錦」や「唐綾」は、これまで日本における現存例の乏しさから、名称のみで実際の織文様や彩りを知る手だてがなかつたものです。しかし、その唐錦や唐綾の一端を、近年中国から出土した遼代の染織品のなかに垣間見ることができます。

このように日本の絹織物の歴史は中国のそれを抜きにしては語れません。現存資料に基づく染織品の歴史的研究は、いつ誰が作ったかも判らない裂の断片をつづり合わせて組み立てるパズルにも似た作業です。そして最も確かな一片が中国大陸から発掘される年代の定まつた出土品にあります。千点を超える作例を詳細に解説した本書は、中国絹織物史・日本染織史研究の具体的な資料として、さらには有職故実の世界やその他の日本文化史の研究に資する一書となるでしょう。



●元 繼絲『百花攢龍』図冊頁



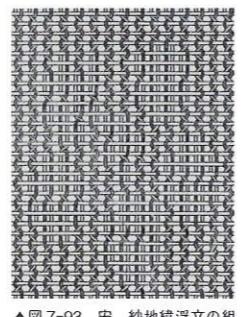
●漢・晋 「五星出東方利中國」錦護臂 ●戦国中期 龍鳳虎文刺繡单衣



▲图 7-91 南宋 深红色牡丹文罗背心
1975年、福州南宋黄昇墓出土、福建省博物馆所藏。
背心丈70cm、腰幅44cm、袖口幅25cm、裾前幅39cm、裾后幅44.5cm、对襟幅1.2cm、对襟无地缘幅7cm。



▲图 7-92 南宋 植牡丹菱形芙蓉文罗の文様
福州南宋黄昇墓出土、福建省博物馆所藏品の模写。
単位文様は、12.5cm × 34cm。



▲图 7-93 宋 紗地緋浮文の組織図

●本文組見本(70%縮小)



▲图 7-94 南宋 善德山茶文罗の文様
福州南宋黄昇墓出土品の模写。
单位文様は、24cm × 33cm。



▲图 7-95 南宋 牡丹芙蓉文罗の文様
福州南宋黄昇墓出土品の模写。
单位文様は、24cm × 33cm。



▲图 7-96 南宋 花入り葉文の巻枝牡丹文羅の文様
福州南宋黄昇墓出土品の模写。
单位文様は、16cm × 34cm。

●著者略歴

黄能馥 (こう のうふく)

一九二七年浙江省義烏生まれ。蘇州シルク博物館顧問、中央美術学院及び清華大学美術学部教授などを歴任。主な著書に、「絲綢史話」(陳娟娟氏との共著、中華書局出版、一九六三年)、「中國美術全集 工芸美術編・印染織繡」(上下巻、文物出版社、一九八五年・一九八七年)、「文物」、「文物報」、「故宮博物院院刊」、「紫禁城」などに論文を多数掲載。二〇〇三年没。

陳娟娟 (ちん えんえん)

一九三六年北京生まれ。中国シルク博物館開業準備局顧問、北京故宮博物院研究員、中国古代絲綢文物複製センター副センター長などを歴任。主な著書に「故宮博物院藏宝錄」(上海文芸出版社、一九八五年)などがあり、「文物」、「文物報」、「故宮博物院院刊」、「紫禁城」などに論文を多数掲載。二〇〇三年没。

●監修者 (日本語版) 略歴
小笠原小枝 (おがさわら さえ)
日本女子大学名誉教授、東京国立博物館客員研究員。専門は、日本・東洋染織の比較研究。著書に「染と織の鑑賞基礎知識」(至文堂、一九九八年)、「日本の美術 染織(中世編)」(同、一九九八年)、「日本の美術 繡」(同、一九九二年)、監修に「別冊故宮更紗」(平凡社、二〇〇五年)など多数。「科学出版社について」
中国科学技術の最高諮問機関である中国科学院(英文名: The Chinese Academy of Sciences)の管轄する科学技術系出版社。考古学、科学、技術、医学、教育関連の図書を中心に、毎年新刊書三千余点、定期刊行物三百余種を刊行する、中国を代表する学術出版社の一つである。



●南宋 淡紫紗の窄袖女褙子



●清 蝴蝶牡丹菊花八团文粧綾吉服袍



●元 織成錦 タンカ 弥勒仏



●北朝～隋 方格獸文錦



●明 撤金地鸞鵠牡丹文縐絲団補

（目次）

序文 杜鈺洲／肖燕翼
著者まえがき

後趙、前秦の絹織物消費
南北朝時代の絹織物生産
中国の養蚕、桑技術の国外への伝播
三世紀から六世紀にかけての絹織物の秀作

第一章 先史時代

中国人が世界文明に誇る貢献
衣生活において最も優れた織物素材
その起源についての神話
その起源についての考古学的収穫

第二章 夏、殷、西周時代

夏、殷、西周時代の養蚕生産
殷、周時代の絹織物と錦織

第三章 春秋戦国時代

春秋戦国時代の絹織物と錦織の概況
春秋戦国時代の絹織物の法定価格および市場価格
戦国時代の絹織物の考古学的発見
戦国時代の刺繡

第四章 漢代

馬王堆一号前漢大墓の発見
文献に記載されている漢代の絹製品の種類
漢代の染色工芸
漢代における絹織物の消費
シルクロードの正式開通
漢代の織機
シルクロード沿いの地域で発見された
漢代の絹織物秀作
漢代の文様染
漢代の刺繡

第五章 魏晋南北朝時代

漢末、三国時代の絹織物生産
西晋貴族の絹織物消費

第六章 隋、唐代、五代十国時代

隋、唐代の錦織生産の概況
唐代の綾、錦、染綸(防染模染)、刺繡
唐代絹織物の紋織技術の研究
隋、唐代、五代十国時代の織繡文様

第七章 遼、宋代、西夏、金、元代

十世紀から十四世紀にかけての中国における織物と刺繡の技術の発展
遼代の絹織物と刺繡
西夏の絹織物と刺繡
金代の絹織物と刺繡
宋代の絹織物と刺繡
元代の絹織物と刺繡

第八章 明代

明代の絹織物生産の概況
清代の主要な絹織物の種類
清代の絹織物の意匠
明代の絹織物の文様
清代の絹織物意匠設計における技術の口伝
刺繡の技法

第九章 清代

清代の絹織物生産の概況

清代の主要な絹織物の種類

清代の絹織物の意匠

清代の絹織物の文様

清代の絹織物意匠設計における技術の口伝

第十章 現代

日本の絹織物生産の概況

日本の主要な絹織物の種類

日本の絹織物の意匠

日本の絹織物の文様

日本の絹織物意匠設計における技術の口伝

第十一章 終論

日本における中国の絹織物 小笠原小枝

齊東楚語 齊藤齊

索引(染織・刺繡用語／人名／書籍・史料名)

●著者略歴

黄能馥 (こう のうふく)

一九二七年浙江省義烏生まれ。蘇州シルク博物館顧問、中央美術学院及び清華大学美術学部教授などを歴任。主な著書に、「絲綢史話」(陳娟娟氏との共著、中華書局出版、一九六三年)、「中國美術全集 工芸美術編・印染織繡」(上下巻、文物出版社、一九八五年・一九八七年)、「文物」、「文物報」、「故宮博物院院刊」、「紫禁城」などに論文を多数掲載。二〇〇三年没。

陳娟娟 (ちん えんえん)

一九三六年北京生まれ。中国シルク博物館開業準備局顧問、北京故宮博物院研究員、中国古代絲綢文物複製センター副センター長などを歴任。主な著書に「故宮博物院藏宝錄」(上海文芸出版社、一九八五年)などがあり、「文物」、「文物報」、「故宮博物院院刊」、「紫禁城」などに論文を多数掲載。二〇〇三年没。